

# ペット同行避難 マニュアル

豊橋市保健所生活衛生課 豊橋市防災危機管理課

# マニュアルの発行にあたって

豊橋市は、南海トラフ地震が起こった場合、最大震度『7』の揺れによって多くの市民が被災することが想定されています。災害による被害が発生し、または被害が想定される場合、避難所が開設され、多くの被災者が避難生活を送ることになります。被災者の中には、犬や猫などのペットを飼育している人もいれば、ペットを飼育していない人、動物が苦手な人や、アレルギーのある人など様々な方がいますので、適切な避難生活を送るための一定のルールを設けることが重要になります。

本マニュアルは、飼い主のみならず、多くの避難者が円滑に避難生活を送ることができるよう、被災前にできる避難所での備えや、被災後の避難所運営に向けた「ペット同行避難<sup>1</sup>訓練」についての具体的な内容を整理したものになります。

また、避難所には、飼い主がペットとともに迷いなく避難できる体制を整え、飼い主及びペットの安全を確保することを目的として、初動の指示書（アクションカード<sup>2</sup>）と物資をとりまとめた「スターターキット<sup>3</sup>」を備えています。

避難訓練や災害時において、本マニュアルをスターターキットと併せて避難所の運営にご活用いただければ幸いです。

- 
- |   |          |   |
|---|----------|---|
| 1 | 同行避難     | 危険な場所から安全な場所に「ペットと一緒に避難する行動」を意味します。避難する場所は避難所とは限りません。また、避難所で <u>ペットを人と同室(または屋外)で飼養管理することを意味するものではありません。</u>               |
|   | 同伴避難     | 避難した場所で飼い主とペットが一緒にいる状態を意味します。「同伴」とはペットと飼い主とが一緒にいることを意味していますので、避難している場所で、飼い主が屋内にいれば屋内で同伴している状態、飼い主が屋外にいれば屋外で同伴している状態をいいます。 |
| 2 | アクションカード | スターターキットの中に入っている、「やるべきこと」を示した指示書のことをいいます。このカードに従ってペット同行避難者の受け入れ体制を整えます。   |
| 3 | スターターキット | 避難所へ最初に到着した方が速やかにペット同行避難者の受け入れ体制を整えられるように、アクションカードと物資をとりまとめたものです。   |

# 目次

## 第1 ペット同行避難にむけて～備えよう編～

1. ペット飼育スペースを選ぶ・・・・・・・・ 3
2. 飼育管理の基本ルールを作る・・・・・・・・ 6
3. 飼い主・住民へ広く知らせる・・・・・・・・ 6

## 第2 訓練時・災害時～やってみよう編～

1. ペット同行避難訓練をしよう・・・・・・・・ 8
  2. 実地訓練・災害時の流れ・・・・・・・・ 9
  3. 参考事例・・・・・・・・ 13
- 【別紙】避難所の詳細ルールの例・・・・・・・・ 14



本マニュアルは、NPO 法人アナイスの協力により作成しました

# 第1 ペット同行避難にむけて～備えよう編～

## 1. ペット飼育スペースを選ぶ

まず、避難所における動物の飼育スペースを選んでおくことが重要です。避難所施設利用計画<sup>4</sup>を見て、他の用途と重ならない場所、人の動線と交わらない場所を選びましょう。また、地域のハザードマップも参考にしましょう。

### 《選ぶときのポイント》

#### 【屋 内】

- ペットを飼育していない方の動線ができるかぎり交わらない
- 人の居住場所へ鳴き声や臭い等が届きにくい

#### 【屋 外】

- 雨風や直射日光をしのげる
- 犬をつなぐことができる丈夫なフェンスや柱がある
- 部外者の立入制限をかけやすい

#### 【共 通】

- 人や車などの通り道から見えない場所にする
- 動物の種類ごとに飼育場所を分ける
- 掃除がしやすい

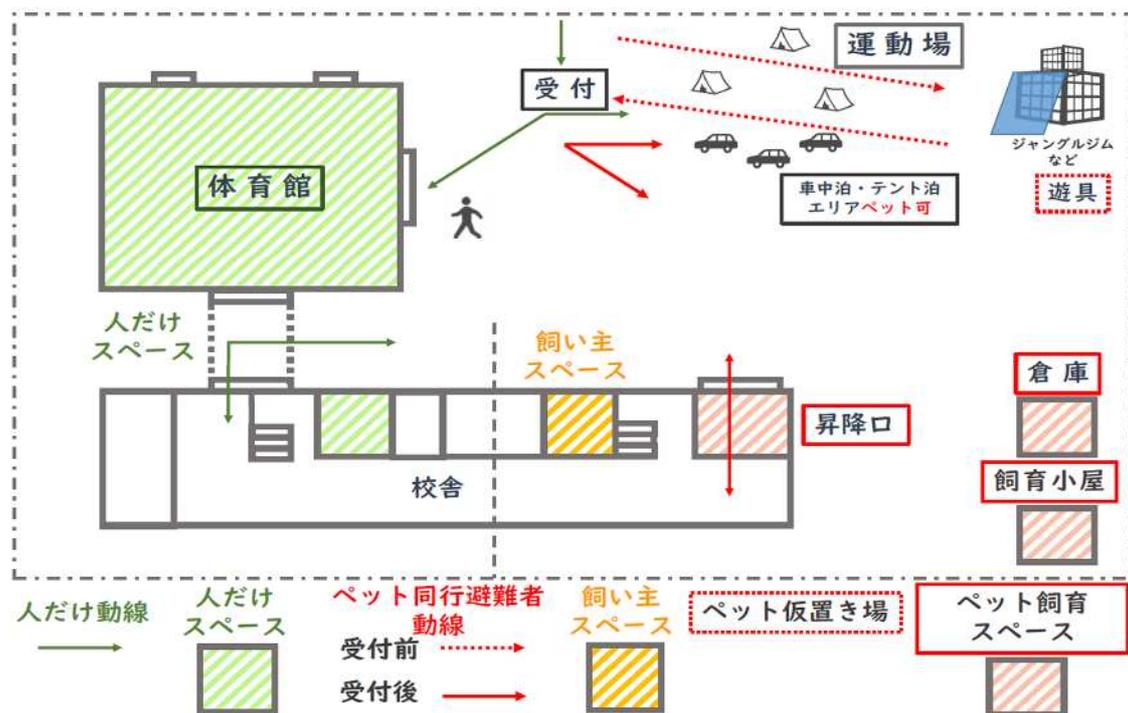
### 《過去の災害で使われた飼育スペースの例》

- 体育館の倉庫
- プール用の更衣室
- 渡り廊下
- 階段の踊り場
- 階段下
- 弓道場
- 職員用玄関
- 音楽室等防音設備のある部屋



4 避難所施設利用計画 避難所となる第二指定避難所の使い方を学校敷地図に記載したもの

## 《避難所施設利用計画に基づくペット飼育スペースの例》



ペットが鳴いたときにすぐ対応できるようにするため、**飼い主スペース**はできるだけ**ペット飼育スペースに近い場所**にしましょう。ペット飼育スペースに余裕がある場合は屋内で同室に避難することも考えます。なお、飼育小屋や体育館の倉庫は、屋根や壁があり風雨をしのごとのできる場所のため、屋外のペット飼育スペースとして適していますので、飼育小屋の動物の有無を確認するほか、常に体育倉庫の整理をしておく必要があります。

### 車中・テント避難者への注意点

車やテントでペットと共に避難する方も想定されます。しかしながら、狭いスペースで長時間過ごすことで、**エコノミークラス症候群**のほか、暑い時期には**熱中症**を発症する恐れがあります。

避難所では、車中避難者も含めた状況を把握するとともに、**ペット・飼い主ともに定期的な運動とこまめな水分補給、温度管理の必要性**を知ってもらう必要があります。また、自分で判断して移動することが困難な小さい子どもや高齢者と同じく、**ペットだけを車に長時間残さない**ように周りに知らせましょう。

### エコノミークラス症候群を予防するためのポイントについて

- ① 時々、軽い運動やストレッチをする
- ② こまめに水分をとる
- ③ アルコールを控え、できれば禁煙する
- ④ かかとの上げ下ろし運動や、ふくらはぎをもんだりする
- ⑤ 眠る時に足を頭より高くして寝る



## 《屋外ペット飼育スペースの例》

渡り廊下や軒下などは、人が生活するには不向きでも、ペット飼育スペースとして使える場所です。屋外は天候の影響を大きく受けやすいので、状況に応じた使い方をしましょう。また、避難所閉鎖後の設備（特に子どもが触れる遊具）等の消毒についても想定しておきましょう。

### 車庫・倉庫



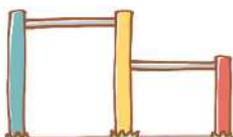
原則、ケージでの飼育管理となります。つなぐことのできないペットの飼育スペースとして有効になりますが、器具等が入っているので事前に学校等施設管理者との調整が必要です。

### サッカーゴール



横に倒して安定させて、ブルーシートを被せます。雨風を防げる場所となり、ケージ等置くことが可能です。

### 鉄棒等遊具



ブルーシートを被せてペットの飼育スペースとして使えます。犬をつなぐ時は間隔を十分にとること、そして子どもが近づかないよう工夫が必要です。

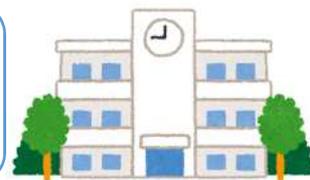
### 昇降口・非常階段



雨対策として、校舎の昇降口付近が活用できます。浸水被害に備え、2階以上の非常階段を一時飼育スペースと想定しておくことも有効です。

### 津波・水害時はペットも一緒に上の階へ避難する

緊急時は臨機応変な対応が必要です。  
水害が落ち着くまでは、ペットを含め高層階へ避難できるよう、関係者に周知しましょう。



## 2. 飼育管理の基本ルールを作る

ペット同行避難が可能な避難所では、ペット飼育管理の基本ルールを決めておきましょう。基本ルールの情報共有は、避難所での混乱を避けることにつながるとともに、飼い主の防災に対する心構えやペットのしつけ等の意識づけにもつながります。

### 《基本ルールの例》

#### 避難所全体のルール

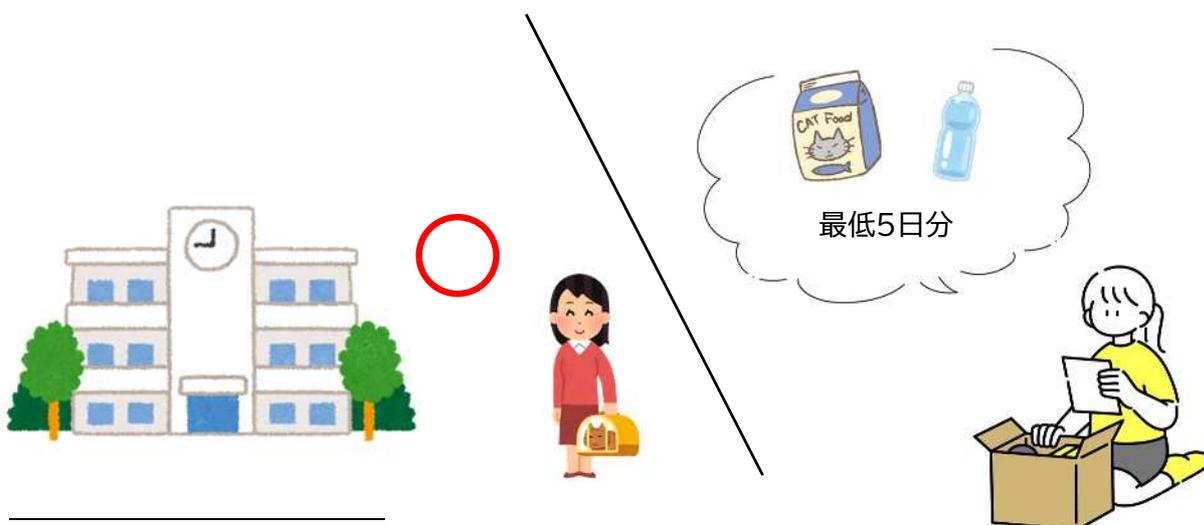
- 避難所運営委員会の指示に従うこと
- ペットは飼い主が責任をもって世話すること
- ペットは指定した場所で飼育し、居室に入れないこと

#### 飼育スペースのルール

- 壁や床を汚さないように気を付けること
- エサの時間を決めておき、終わったら片付けること

## 3. 飼い主・住民へ広く知らせる

「自助<sup>5</sup>」がとても重要となりますので、**飼い主に準備を促すため**にも、ペットを受け入れる避難所ができれば住民に知らせましょう。避難所での基本ルールや平時の備えなどの情報も広めましょう。



5 自助

ここでは、自分とペットの安全は、自分で守ることを意味します。

共助

近隣住民や飼い主同士の助け合い、広域の助け合い、他の組織を交えた助け合いを意味します。

公助

行政機関などによる支援を意味します。

## 避難者への情報提供方法の検討

被災情報や避難所の様子に常に気を配り、避難者に提供すべき情報をすぐに提供できる方法が必要です。**ラジオ、テレビ**のほか、いつでも誰でも見られる**ペット同行避難者向けの掲示板（右図）**を用意しましょう。



## 日頃からの情報発信が重要

災害時に、被災者が情報収集を行う手段として、テレビの他にインターネットも多いため、**HP や SNS での情報発信**は欠かせません。

常日頃より、避難が必要な際には「**ペットと一緒に避難**」が基本であることを伝えましょう。



## 第2 訓練時・災害時～やってみよう編～

### 1. ペット同行避難訓練をしよう

避難所のペット受け入れに必要な資材などをまとめ、避難所に保管している「スターターキット」を用いて、ペット同行避難訓練を進めていきます。スターターキットの中に入っている、「アクションカード」に沿ってペット同行避難者の受け入れや飼育スペースでのペットの管理などを通して、課題を探していきましょう。

#### 《過去に実施したペット同行避難訓練の例》

訓練の流れ	避難所運営委員会	避難者
講習	災害時の心構え、ペット同行避難等についての講習を開催/受講する	
避難所の開設・避難	避難所を開設	ペットを連れて避難する
飼育スペース等の設置	スターターキットを使い、避難所運営委員会と避難者が協力してペット同行避難の受け入れ体制を整える	
ペット同行避難者受付	スターターキット内の受付簿や台帳を使って実際に受付を行う	
		記入項目（登録番号やワクチン履歴など）を書けるか確認する
		避難所での飼育ルールを把握する
避難場所で待機	飼育スペースが適切か確認する	ペットを連れて避難する 実際の飼育スペースの様子をみて必要なものを確認する
意見交換、振り返りなど	参加者同士や、参加者—避難所運営委員会間で意見交換をする	
	スターターキットが機能したか確かめる	
	訓練の振り返りを踏まえ、受付や飼育スペース、スターターキット等の見直しを行う	

## 2. 実地訓練・災害時の流れ

### 1) スターターキットを保管場所から取り出し、内容を確認する

スターターキットは災害備蓄倉庫や体育館の倉庫など、災害用備品と共に保管されていますので事前に、保管場所を確認しましょう。

(以下、アクションカードに沿って進めます)

### 2) ペット仮置き場をつくる

この後の作業を、飼い主が両手を空けて行うことができるようにするために、**ペットを一時的に置く、もしくはつなぐ場所**をつくります。**ブルーシート等**を使い、あらかじめ決められた場所をペット仮置き場として使います。



←遊具にブルーシートを被せて、ひもで固定している。

屋根を作り、その下にペットをつないでいる。

### 3) ペット飼育スペースをつくる

決められた場所に飼育スペースを作ります。屋内の場合は汚れないように**ブルーシート**を敷き、その上にケージを組み立てます。ペットをリラックスさせるため、**段ボールやバスタオルで目隠し**をしましょう。屋外でも遊具等にブルーシートをかければ雨風をしのぐ場所として使えます。犬をつなぐ場合は、つなぐ場所が丈夫か確認をし、犬同士の距離や性別を考慮して配置しましょう。



←渡り廊下にブルーシートを敷き、ケージを設置している。

防寒のために毛布をかけている。

## 4)受付の設置



避難所運営委員会の確認のもと、机や椅子を使って、一般の方の受付と同じように**ペット同行避難者の受付窓口**を作ります。ペット同士のトラブルを避けるため、飼い主には**ペット仮置き場に一度動物を置いてから受付**をするよう伝えましょう。

↑受付を設置し、スターターキットから必要な物資を取り出している。

### ① 受付内容

動物の種類ごとに、飼い主とペットの情報を記入して**受付簿**を作成します。同時に**ペット情報カード**を渡します。ガムテープなどにも必要な情報を記入し、首輪やケージに貼るなどの工夫により、取り違えを防ぎましょう。

#### ペット同行避難の受付簿（犬）

受付番号	入所日	退所日	飼い主氏名	ペットの名前	犬種	性別	色	避難所内の飼い主の居場所	緊急連絡先	注意事項
1	7/22	/	豊橋 太郎	ほいっぷ	柴犬	♂・♀ 不妊去勢	白	体育館奥ステージ 右側	080-0000-△△△△	臆病な犬。 怖がって吠えてしまう。

↑受付簿記入例

記入原本

### 犬 情 報 No. ....L.....

動物名・種類・特徴 ほいっぷ(柴犬・白・緑の首輪)

飼い主名(ふりがな) 豊橋 太郎(とよはし たろう)

飼い主避難所 体育館 奥 ステージ右側

緊急連絡先 080-0000-△△△△

△注意事項△  
臆病な犬です。怖がって吠えてしまうので、できるだけそっとしておいてください。

←ペット情報カード記入例

## ② 基本ルール順守の説明

受付で「飼育管理の基本ルール」を広めましょう。混乱防止のために受付と同時に基本ルールのチラシなどを配布するなどの工夫をしましょう。

《基本ルールの例》

### 避難所全体のルール

- ・避難所運営委員会の指示に従うこと
- ・ペットは飼い主が責任をもって世話すること
- ・ペットは指定した場所で飼育し、居室に入れないこと

### 飼育スペースのルール

- ・壁や床を汚さないように気を付けること
- ・エサの時間を決めておき、終わったら片付けること

## ③ ペット飼育スペースへの移動

受付後、飼い主とペットは飼育スペースに移動します。ケージやリードにペット情報を記入したカードを取り付けます。



←ペットをケージに移動させた後、ケージにペット情報カードを貼り付けている。

## 5) ペット関連掲示板を設置

ペット関連のルールを知らせるとともに、情報を共有することが目的になります。壁や飼育スペースの仕切りの板等を使ってよいか、**避難所運営委員会に確認**します。



←犬の飼育スペースの仕切り板をペット関連掲示板として利用している。

## ○ペットの排泄物を捨てる場所等ルールを決める

必ず**飼い主と避難所運営委員会**で話し合い、P.14 の例にあるようなルールを決めます。

### 詳しいルールについて

基本ルールは事前に決め、詳細のルールは災害後に避難生活の状況に合わせて設定する必要があります。ペットの管理は飼い主自らが行う「自助」が中心ですが、「共助」ができれば一人ひとりの負担が少なくなります。例えば「**飼い主の会**」を立ち上げ、**避難所運営委員会の意見も取り入れた**、それぞれの事情に合ったルール作りを進めましょう。



### 3. 参考事例 過去に実施したペット同行避難訓練の様子

～岩田小学校～令和5年7月 ※気温が高かったため、スポットクーラー等準備



ペット仮置き場（テントと遊具を使用）



受付



ペット飼育スペース（渡り廊下）



掲示板

（犬飼育スペース仕切り板を使用）

～多米小学校～令和5年12月



ペット仮置き場（遊具）



受付（名簿とペット情報カードを記入）



ペット飼育スペース（渡り廊下）

## ○別紙 避難所の詳細ルールの例

### 【給餌、ふれあい】

- ・ 時間と場所 ※早朝や夜遅い時間は避ける

### 【犬の散歩】

- ・ 時間
- ・ 他の居住者の動線と交わらない散歩コース

### 【排泄】

- ・ 屋外の排泄場所の指定
- ・ 回収した排泄物の捨て方、場所

### 【清掃】

- ・ 散歩コースなどの掃除場所
- ・ 飼育スペースの当番や方法

### 【フードの保管場所】

- ・ 個別か一括管理か

### 【退去時の清掃】

- ・ 飼い主がきちんと清掃し消毒する

### 【鳴き声対策】

- ・ 段ボールなどで目隠しする
- ・ 犬をつなぐ場所やケージの場所を刺激が少ないところにする

### 【ニオイの対策】

- ・ 食べ残しはすぐに片付ける
- ・ フードの袋の口はしっかり閉じる

### 【毛の対策】

- ・ ブラッシングをする場所を決める
- ・ 居室に入る前に粘着ローラーやガムテープで衣服の毛を取る

## 本マニュアルに関する問い合わせ先

豊橋市保健所生活衛生課  
電話 0532-39-9127

豊橋市防災危機管理課  
電話 0532-51-3116